



登下校を見守る温かい目！交通指導員

降りしきる蝉の声に夏の盛りを感じる季節になりました。

「東栄小北」押ボタン式横断歩道では、暑い日も寒い日も雨の日も雪の日も毎日、子どもたちが登校する朝や下校する午後の時間帯に、紺色の制服姿の交通指導員・平野えみさんが立ってみえます。歩行者信号が青色になると、子どもたちに「はいっ。気を付けて渡るよー」と声をかけながら旗を上げ、安全に渡れるように見守ってくれています。時には、交通ルールを守らない子がいると、命を守るために厳しく注意をします（中学生・高校生・大人に対しても）。他にも校区内をパトロールして、気になる事（道路や標識、放置自転車など）を市役所に報告する仕事もしています。平野さんが交通指導員になられたのは今から4年前、「これまで活動していてよかったことは何ですか？」との質問に対して、平野さんは「登下校の時にたくさんの子が話しかけてくれたり、地域や保護者の方からお礼を言われたりした時がうれしかった」と応えてくれました。また、「これまでの活動の中で、印象的なことは何ですか？」との質問に対して、「6年生の男子で反抗期のせいかわ、注意しても全然聞いてくれませんでした。中学生になったら、時々しか会わなかったけれど、あいさつをしてくれるようになりました。その後、高校生になった今、顔を合わせるとあいさつをし、会釈もしてくれます。とてもうれしいです」と応えてくれました。毎朝、自転車で通学している高校生の誰もが平野さんにあいさつをしています。今まで培ってきた平野さんの「交通ルールを守ってほしい」という強い願いと深い愛情が伝わっているのだと確信しました。



かつて、黒や赤ばかりだった子どもたちのランドセルは、水色や茶色など多様になりました。習い事が増えたためか、寄り道やだらだらとおしゃべりをせずに家路を急ぐ子が増えてきました。登下校の景色は少し様変わりをしてきましたが、子どもたちを見つめる眼差しは変わりません。東栄小学校正門前にある「東栄小北」押ボタン式横断歩道は、どこにでもありそうな普通の横断歩道ですが、地域の人たちの交わりや人情にあふれています。

～いいところみつけの旅 その4～

最近、「あいさつ」をする子が増えてきて、とてもうれしい気持ちです。廊下でも「こんにちは」と笑顔を向けてくれたり、手を振りながら「あいさつ」をしてくれたりする子もいて、元気をもらっています。「あいさつ」には魔法のパワーがありますね。

(校長 井田 寿)